

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29（2017）・1224 NO65

校長 伊波喜一

あちこちの家から漏れる ほうきがけ 手持ちぶたさに たわむるは子等

平成29年もあと一週間で幕を閉じる。私の家でも、後始末に余念がない。子どもの頃、正月を迎える前の大掃除は、何となく浮かれた気持ちになったものだ。父母達は障子の張り替えをしたり、畳をひっくり返してはいたり、正月料理の仕込みをしたりと、口をきくのも惜しいというように大忙しに働いていた。私もそれなりに手伝いはしたが、あまり役には立たなかったのであろう。「向こうで遊んでおいで」と言われるのが常だった。 そのようにして家を追い出された（?!）子ども達が、どこからともなく村の広場に集まっては、遊ぶでもなくあっちへブラブラ、こっちへブラブラする姿が見られた。 当時は薪をくべて釜でご飯を炊いたり、大釜で風呂を沸かしたりしていたぐらいなので、親達も生活することに追われていた。子どものことを構おうにも、構っている余裕がなかったに違いない。結果的に、過干渉されなかったことで、自分で考える習慣が身についたと思う。 物事の熟成には時間がかかる。敢えて口出し・手出しせず見守ることが、今、求められているように思う。